

表情の認知特性 II

顔アイコンの目と馬の目皿（民芸・工芸）

○永井 弘人

（愛知教育大学 教育学研究共同教科開発学 博士課程 院生）

KEY WORDS: 教育 知的障害 顔アイコン

（目的）

人の顔の表情の読み取りについて、顔アイコンという単純化されたシンボルを取り上げた磯部（2004）の調査を知的障害を持つ生徒を対象に追試し先行研究同様の結果を得た。さらに永井（2017）の顔の角度の変化を示す顔アイコンからの表情の読み取り結果から、養下等（1997）の示した伝統文化（能）での知見も確認でき、表情の認知能力（表情の読み取り能力）は、定形発達した学生らと遜色無いことの証左を得ることができた。

本研究では、顔アイコンが伝える表情に関する先行研究における判断要素の中で、目だけに焦点化した知見が少ないため、特にデフォルメや単純化された目に注目し、身近な工芸品（瀬戸・民芸 馬の目皿）に描かれた模様を例として顔アイコンの表情を判断する際の目の持つ特徴について考察した。

（方法）

対象生徒

高等部生徒 18名（男子13名 女子5名）

- ・年齢 16歳～18歳
- ・主な障害 体幹機能障害（脳性マヒ他）
知的障害、広汎性発達障害
- ・障害の程度・構成

下学年の内容を学習する教育課程 18名

顔アイコンパターン①（目と口の変化）

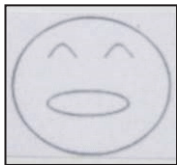


図1

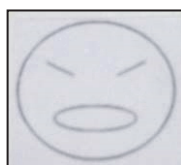


図2

図1、図2のような「うれしい」「おこる」の判断において、目か口を変化させたパターンで比較する場合は、口より目の形を全員が表情の判断基準とした。

顔アイコンパターン②（顔色の変化）

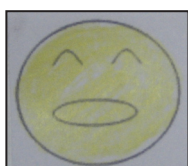


図3



図4

図3、図4のような「うれしい」表情の顔アイコンで、目と口の形は同じでも顔色を変えると、18人中12人が一致した。判断した理由として次のようなものがあつた。

- ・赤い顔は、コントラストがはっきりせず、表情があいまいになる。

顔文字アイコン③（同レベルのコントラストの顔色）



図5（黄色）

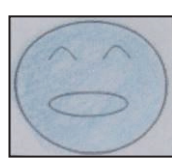


図6（水色）

同じレベルのコントラストのアイコンから読み取る表情は、18人中16人が一致した。

顔文字アイコン④（目の単純化とデフォルメ）

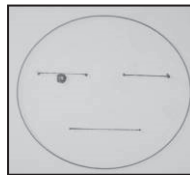


図7



図8

全員が、単純化された直線で円内の一定値位置にあれば目として認識し、その形から表情の手掛かりを得ようとした。中でも、図8の右目は動いているような動物の目に見えるという見解は、18人中15人が一致した。



図9「馬の目皿」

愛知県瀬戸市で明治期より大量生産された民衆的工芸品。民芸運動の柳宗悦が注目評価した。民芸の陶器は、地味な模様のもので多い中、図9は模様が目立つ。18人中14人が「動物の目」と判断した。

（結果）

- ・パターン①より、表情は目の形で決定され、パターン②より、表情の読み取りに、顔色も限定的ではあるが影響することが明らかとなった。
- ・パターン③より、コントラストが同じならば顔色の影響はさらに限定的となった。
- ・パターン④より、単純化やデフォルメされた形でも円内の一定位置にあれば目と認識し、表情判断の要素となる。
- ・顔の輪郭が無い皿の模様にも目は認識され、動物のものまで判断ができた。

（考察）

顔アイコンは、現場における非言語のコミュニケーション手段として多用されていることから、その有用性は認められている。多くは、○か×の2者択一的な利用だが、本研究の様々な顔アイコンのパターンから、その伝達したい内容は目の形が大きく影響し、形によっては動物の目であるとさえ認識できることから、その形や傾きなど微妙なニュアンスを伝える手段としても可能性を示したと考える。

なお、本研究は、美術の授業におけるデザインや鑑賞の学習をする中で進めており、今後は、量的・質的ともに検証精度を上げることを課題として取り組みたい。

（文献）

- 磯部有美子（2004）顔アイコンが表す感情に関する調査。
名古屋文理大学はせがわ研究室 卒業研究報告. 3-1-6.
永井弘人（2017）表情の認知特性. 第54回日本特殊教育学会にて口頭発表
養下成子 佐藤親次 森田展彰 中村俊規 松崎一葉
菊池 正 小田 晋(1997) 能面を用いた表情認知の研究.
人間工学. Vol133. No2. 79-86